科目名	臨床看護概論Ⅲ						DP2 DP3					看護高等課程
		(;	台療処置別	别看護)			DP4 DP6			1 で 日 で 日 で 日 で 日 で 日 で 日 で 日		
学年	1年	分野	専門 基礎看記 臨床看護概		時間数	数 29 時		担当教員	武田 玲子(2)		)、村山	有美 (6)
科目	治療・処置に伴う看護の特徴を踏まえ、対象に応じた看護や基本的な救命救急処置の方法を学ぶ。また、事例を通して、適切な看護を実践するための基本的な考え方や知識・技術を統合し探求していく能力を身につ											
概要	けられるように学んでいく内容とした。問題基盤型学習、自己指向型学習、小集団討議、プレゼンテーションなどを活用し学ぶ。											
到達	1. 治療処置が対象の日常生活にどのような影響を与えているのか考えることができる。											
目標	2. 対象者への看護を考え、看護の実際について理解することができる。 3. 基本的な救命救急処置の方法を理解することができる。											
回数	単元項目			授業内容							形態	担当教員
	治療・処置に伴う看護			安静療法を受ける患者の看護 (活動と休息のアセスメントと援助の考え方) 食事療法を受ける患者の看護 (栄養のアセスメントと援助の考え方)							講義	武田
1~11				薬物療法・輸液療法を受ける患者の看護 (呼吸器・循環器・消化器・脳神経系の治療を受ける患者のアセスメントと援助の考え方)						·受		
12~14	救急処置を受ける患者の 看護			救急処置の意義・目的 救急処置の特徴 救急処置を受ける患者の看護の実際・止血法 心肺蘇生法、一次救命処置・二次救命処置 AEDの使用方法						講義	村山	
15	試験			(1 時間)							試験	
評価	100 点満点とし、6 割以上を合格とする。また、授業時間数の 3 分の 2 以上の出席が必要となる。(ペーパー											
基準	テスト、パフォーマンス課題、ルーブリック 合計 100 点)											
評価	出席状況と講義演習への参加態度、課題レポート、筆記試験などで総合的に評価する。											
方法	また、シミュレーション演習、パフォーマンス課題、ルーブリックに基づき、ポートフォリオの内容等も											
教科書	総合的に評価を行う。 看護学入門 7 基礎看護皿 臨床看護概論 看護学入門 6 基礎看護 II 基礎看護技術 ケアに生かす 検査値ガイド第 2 版 疾患別看護過程の展開 学研、看護過程に沿った対症看護 学研 必要時、資料等は配布する。											
履修上												
の												

注意点